

## 【短報】

# コロナ禍における薬草教室の開催について

徳島県立保健製薬環境センター

笹部 真樹・小原 佑介・石丸 智子・長谷 良子

Holding a Medicinal Herbs Class During the COVID-19 Pandemic

Masaki SASABE, Yusuke KOHARA, Tomoko ISHIMARU and Ryoko HASE

Tokushima Prefectural Public Health, Pharmaceutical and Environmental Sciences Center

## 要 旨

当センターでは、県民を対象として、薬用植物の正しい知識普及を目的に、薬草教室を年8回開催してきたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大（以下、「コロナ禍」という。）により、令和元年度末から令和4年度途中まで開催中止を余儀なくされた。とくしまアラートが「レベル1・感染観察」に引き下げられたことから令和4年11月に、規模を縮小し、約2年ぶりに開催することができた。今回、薬草教室の再開にあたって、コロナ禍前の実施内容を精査したのでその内容と、参加者の安全対策を最優先し実施した感染対策等について報告する。

Key words : 薬草 medicinal herbs, コロナ禍 COVID-19 Pandemic

## I はじめに

本県では、古くから薬用植物に対する需要が高く、いろいろな薬草・薬木等が治療薬、売薬、家庭薬として多く用いられてきた。

本県には、野生の薬用植物や栽培に適した薬用植物が多数あり、その研究や、標本植物を収集、活用するため、昭和27年、当時の旧練兵場跡（現在の徳島県蔵本公園）の一角4,000㎡に徳島県薬用植物栽培試験圃が設置された。その2年後、荒地を整地し、標本植物を移植、徳島大学と協力し、各種研究を開始した後、一般への栽培の相談、指導に応じるようになった。

現在の薬用植物園は、野球場やプール等の設置により、移転、縮小され、東園・西園あわせ総面積1,361.6㎡となり、県内でよく使用されるものを中心に約200種の薬草と木本類を植栽している<sup>2)</sup>。管理事務所には生薬標本、薬草写真等を展示しており、平日の午前9時から正午まで、無料で一般公

開を行っている。

また、薬用植物についての正しい知識を広めるため、県民を対象に職員が講師となり年8回の薬草教室を開催してきた。

しかし、令和2年3月から令和4年10月までの間、コロナ禍により開催中止を余儀なくされた。令和4年10月4日にとくしまアラートが「レベル2・感染警戒・前期」から「レベル1・感染観察」に1段階引き下げられたため、令和4年11月に、規模を縮小し、必要な感染対策を講じて約2年ぶりに開催した。

今回再開にあたって考慮した点や感染予防対策等について取りまとめたので報告する。

## II 薬草教室の開催内容

### 1 薬草教室の概要

コロナ禍前と再開時の概要を表1に示した。

再開にあたっては、感染予防のため、定員を25名程度から

10名に削減し、内容も、屋内での講義やドクダミ茶の提供など感染リスクの高い内容は省き、屋外での観察、説明のみとした。また、今後の開催の参考にするため、参加者にアンケートを依頼した。アンケートの内容については後述する。

表1 薬草教室の概要（コロナ禍前及び再開時）

	コロナ禍前（～R2.2）	再開時（R4.11）
定員	25名程度	10名
募集方法	ホームページ（当センター、徳島県立総合高等学校まなびーあとくしま） 徳島新聞（情報とくしま） 蔵本公園事務所、薬草園前にポスターの掲示	蔵本公園事務所のポスター掲示はなし。 それ以外は、変更なし。
内容	屋内で講義 ドクダミ茶の試飲 屋外での植物（10種）の観察、説明	→見送り →見送り 屋外での植物（10種）の観察、説明
所要時間	1時間30分	1時間
開催回数	年8回	（R4年度は1回）

### Ⅲ 結果及び考察

#### 1 参加者の推移

参加者の推移を表2に示した。

令和4年度の応募者は、コロナ禍前より大幅に減少した。原因としては、県民がコロナ禍を意識し受講を控えていたこと、2年以上中止していたため募集に気付かなかったこと、さらには、主催者側も規模を縮小するため、蔵本公園内のポスター掲示を見送ったこと等が考えられた。

表2 薬草教室の参加者の推移

	開催回数	応募者（人）		参加者（人）	
		延人数	1回平均	延人数	1回平均
H30年度	8	244	30.5	173	21.6
R1年度	7	304	43.4	153	21.9
R2年度	0	—	—	—	—
R3年度	0	—	—	—	—
R4年度	1	15	15	10	10

#### 2 アンケート結果

令和4年11月開催時に、参加者10人に対してアンケート

を実施し、全員から回答を得た。結果を、図1に示す。質問2では、ほとんどの人が新聞で知ったと回答した。一方、ホームページで開催されることを知った人はいなかった。

新聞での周知は効果的であるが、広く啓発するためには、新聞以外の周知方法を工夫することも必要である。

今回、年齢調査を行わなかったため、年代において利用しやすい募集方法があるのか不明であるが、今後、幅広い年齢層の方に来ていただくためにも、SNSなど様々な募集方法を取り入れていくことも検討したい。

アンケートの最後に今後実施してほしいテーマを募集したところ、薬草を使ったお茶や料理、漢方に使用されている薬草、加工方法などがあつた。また感想には、花の季節に来たいという記述があつた。

今回のアンケート結果をふまえて、テーマ、開催時期について検討していきたい。

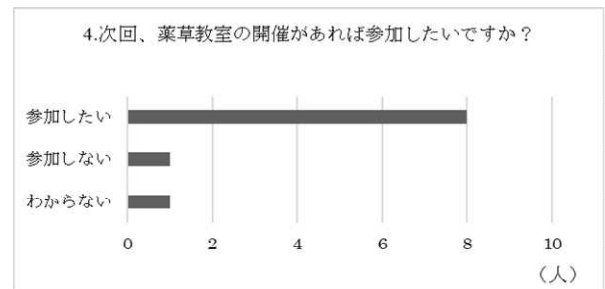
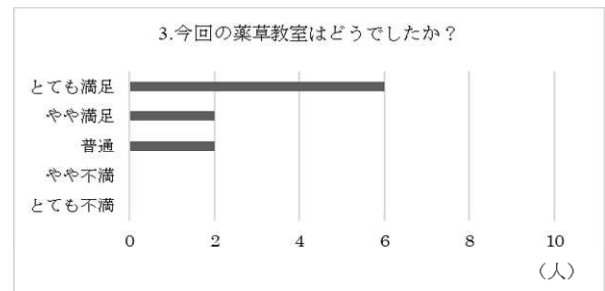
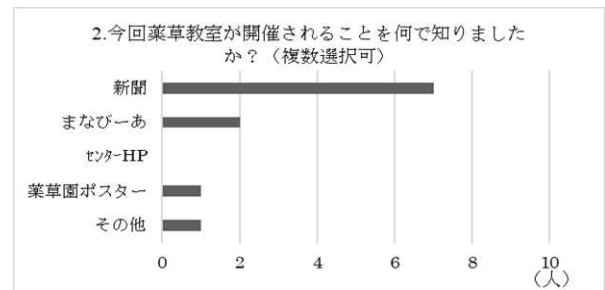
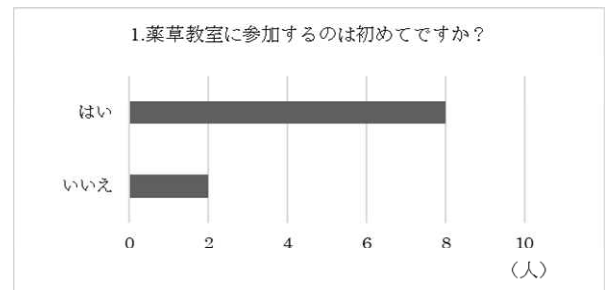


図1 薬草教室アンケート結果（令和4年11月実施）

### 3 感染症対策

令和4年度に開催した薬草教室は、募集人数、実施する内容の変更など、感染症対策を講じて実施した<sup>3)</sup>。

感染症対策について下記に示す。

- ・手指消毒薬の設置
- ・検温の実施
- ・マスク着用の徹底
- ・大声での会話は禁止
- ・徳島県コロナお知らせシステム<sup>4)</sup>の使用
- ・職員はフェイスシールド着用

適切な感染対策により、参加者、職員ともに安心して開催することができた。

### IV まとめ

薬用植物の知識普及において、希少な薬用植物を実際に見ながら対面で説明し、受講者の反応も生で感じられる、目で見て体験できる薬草教室は効果的である。

感染症パンデミックの流行拡大時期においては、県民の安全が第一であり中止せざるを得ないが、その状況が落ち着いた段階で、適切な感染対策をとった上で薬草教室を再開させたことは、非常に有意義であった。

今後も感染症の流行状況と県民の生活様式の変化に応じた薬草教室の募集方法、実施方法等、また、他の手法による啓発なども検討しながら、薬草の正しい知識の普及啓発活動に取り組んでいきたい。

### 参考文献

- 1) 徳島県危機管理環境部危機管理政策課：とくしまアラートの発動基準について（令和4年12月2日改訂），  
<https://anshin.pref.tokushima.jp/docs/2020052900071/>  
（2023年9月8日現在）
- 2) 徳島県薬業史編集委員会：徳島県薬業史，253～255，  
徳島県薬事協議会（1981）
- 3) 新型コロナウイルス感染症対策本部：新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針，令和3年11月19日（令和4年9月8日変更）
- 4) 徳島県保健福祉部感染症対策課企画・広報担当：とくしまコロナお知らせシステムの終了について，  
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokatata/kenko/kansen-sho/5038390>（2023年9月8日現在）